

山岳友の会会報

2026年3月 第58号



第77回現地研修会（三原山）波浮港見晴台にて 撮影：渡邊 修

も く じ

第77回現地研修会(三原山)

報告1 渡邊 修……………2

報告2 茅野 英一……………14

第76回現地研修会(蝶ヶ岳・常念岳)

報告4 熊谷 久……………17

報告5 細萱 繁……………18

報告6 吉田 幸二……………19

第77回現地研修会

「伊豆大島三原山に登り新鮮な魚介を食す旅」報告 その1

渡邊 修

令和7年度の現地研修会も回を重ね今回が3回目となりました。紛れもなく今年度の最大のメインイベントであり、10月7日(火曜日)～10日(金曜日)今回は総勢14名の参加となりました。このメインイベントを大いに楽しみにしていたにも拘わらず諸般の事情により、残念ながら急遽三分の一を占める7名の方が涙を呑んでの不参加となりましたが、何とか無事に開催されました。

山岳友の会の年に一度のこのビッグイベントをあざ笑うかのように、数日前に突如として発生したまさかの大型台風22号(Halong:ハーロン)に伴う影響により、行く前から何故か胸騒ぎが収まりませんでした。思い起こせば2016年8月29日～現地研修会「高山植物の宝庫・秋田駒ヶ岳と乳頭温泉」時の東北地方を縦断した迷走台風10号(Lionrock:ライオンロック:風速45m/s、最大風速60m/s)が頭を過りました。(最終的には中止にはならず秋田駒ヶ岳には暴風雨の中、10名での強行登頂を実施、暴風雨の為最後は四つん這いになって登頂する羽目に。その後これを教訓に勇気を持っての決断の下に登頂中止等…危険行動を回避することとなりました。)
「まさか…あの時の二の舞に？中止にならなければ良いのだが…否、絶対に行ける！大丈夫だ！」と確信もないまま自分に何度も言い聞かせながら…。

今回の現地研修会がかつてない程のドタバタ劇？珍道中？になることを一体参加者の誰が予測し得たことでしょうか？何れにしても、大島から200km程離れている八丈島、青ヶ島では、記録的な大雨と猛烈な風により、多くの建物で屋根が飛んだり外壁が損壊する被害が相次いだほか、倒木による道路封鎖、土砂災害も発生しました。更には、ライフラインへの影響も広がり停電や断水等が発生しました。そんな中で、無事に開催され(ジェット船欠航により滞在日が1日延びました。)、4日間…多少の風は吹いたもの殆ど影響もなく、雨にも降られず傘を使用することもなく、全員笑顔で無事に戻られたことにただただ感謝です。

当初の募集人員は宿の予約が取れずに何と僅か12名。今年度の現地研修会には仕事の関係から今まで連続で参加できずにいたので、今回の「伊豆大島」に大いに期待を込め照準を絞っていただけに、早く申し込まないと定員オーバーで参加できないと思い案内通知が届いて直ぐに申し込みを行いました。これに漏れたら……今年度の現地研修会全てが不参加になってしまうとの思いで申し込みはしたものの、いざ通知が届くまでは内心ドキドキ(元々ガラスの心臓なので……)でしたが、事務局から届いた参加予定人員は何と21名！「えっ！なんで！21名なの？……」……何と9名も多いではありませんか。今回の現地研修会の人気の程が伺えます。

「……ん！これは一体どういう事なのか？」……何という事でしょうか！事務局からのメールに事の経緯が記載されていました。それによると締め切り後も次から次へと追加での参加申し込みが殺到し、宿と東海汽船(ジェット船の予約)へ頻繁に連絡を入れて、キャンセルが出る都度追加の予約を行い何とか21名分を確保したとの事でした。

私事で誠に恐縮ですが……実は今年度は仕事の忙しさも然る事乍ら、4月の職場の同僚との毎年恒例の単車で佐渡島ツーリングを皮切りに沼津旅行、7月のIGアリーナでの柿落としとなる大相撲名古屋場所観戦、8月は村の公民館行事の御前崎交流会(王滝中学校は御前崎中学校と姉妹校)、9月も職場の同僚との三重～和歌山～奈良への単車でツーリング等で例年以上に遊びまわっていたので、参加者多数で参加できない者が出た際には他の者を優先させ、自分は遠慮しようと思っていたのですが……何とも嬉しいことにそれは取り越し苦労に終わりました。

さて前置きはこれくらいにして早速本題へ……

今回の現地研修会は竹芝客船ターミナルが集合、解散場所。7日13時30分出港に間に合うように集合すればオッケー！交通手段を事前に何人かに尋ねると新幹線（長野、上田方面組）、電車、バス（松本、木曽方面組）、関東圏組は直接竹芝客船ターミナルへと様々でした。私は松本に前泊して、久雄さん達と高速バスで新宿まで行くルートを選択しました。（理由は勿論、あずさに比べ安価であること、乗車後車内で直ぐに飲める事（電車も同じか…）、3名もの心強い仲間がいること etc…）

岡谷ジャンクションの集中工事に伴う交通渋滞は十分承知の上で、新宿～竹芝桟橋までは2時間の余裕を持って7時50分発の松本バスターミナル発を予約、新宿バスタ11時08着としました。この選択がまさかの大事態になるとは誰しもが予想をしていませんでした。普段職場をはじめあらゆる場面でリスク管理を声高々に叫んでいるのに何という事でしょう！幾ら予想外のアクシデントとは言え、この不測の事態を想定することが極めて重要な事にも拘わらず、改めて危機管理能力に欠けていたことを実感し、大いに反省する機会となりました。（今後バス利用の場合は集合場所へは原則前泊することを決定。）

7日火曜日：初日

松本のアパートから7時過ぎの路線バスに乗車、平日とは言えこの時間帯は通勤車両も少なくバスターミナルには順調に到着。乗車券を購入後、同乗予定の久雄さん、田下さん、Tさんを乗降口で待つ。程なくして久雄さん到着。田下さんも落ち着いた様子で颯爽と登場。暫くするとお客さん達が順次乗車。あれっ！…Tさんが来ないけど…！電話を掛けるも…応答なし。2人にも同様に連絡を入れてもらうも…応答なし。発車少し前に漸く繋がるも…どうやら開催日を間違えていたのか？（過去にも一度あったので…）未だ自宅とのこと。えっ！…これでは間に合わないよ。竹芝までの次なる交通手段は、9時10分発のあずさに乗れば十分間に合う！自宅から松本駅までは1時間も掛からない。山口会長もこの便に乗車と言っていましたので。この交通手段で松本駅に来て間に合うことを祈りつつバスへ乗車。運転手さんに空席となったTさんの席への移動を御願いして了承され、最前列の3人横並びの席に。残念ながらバスはTさんに乗せることなく定刻7時50分バスターミナルを出発。8時過ぎに高速に入り安定走行になったところで、久雄さんから冷えている「未来のレモンサワー（本物のレモンスライス入り）果汁、アルコール共に5%」が手渡された。久雄さん曰くどうやらこれが最近人気急上昇で、某山小屋ヒュッテでは随分流行っているらしく、何ケースかをヘリで荷揚げしたとか…！乾杯後早速一口飲むと！…少々甘めだが決して悪くない。これにもうすこしアルコールと氷を足せば更に美味くなる。何と言っても生のレモンが良い感じ。なるほど人気になるのも頷ける。早々に飲み干すと次は赤の箱ワインへ、バスは順調に新宿へ向かい岡谷ジャンクション集中工事の為みどり湖SA先のトンネル前からノロノロ運転になるも、この状況であれば通過には20～30分程度。予想通り20分程で岡谷ジャンクションをクリアし、順調に新宿バスタへと向かう。無事に通過できたことでワインも更に進む。バスも順調、アルコールも順調。2杯目を飲む頃には随分心地良い状態に。山梨県に入り暫くすると先発のバスとバスセンターから運転手さんに緊急連絡が入る。どうやら調布IC～高井戸間で大きな交通事故が発生し、上り線が通行止めとのこと。双葉のSAまで行き通常のトイレ休憩、事故状況等を把握し渋滞が酷ければ、談合坂SAまで行ってからルートの変更をするのか判断を行うとのこと。何故か嫌な予感が頭を過る。二人共既にAC（アルコール）もかなり入っているせいなのか、特に久雄さんは何時も通りの口調で「大丈夫だよ！時間迄には恐らく間に合うよ！心配ないよ、問題ないよ！」と客観的に見て何も根拠のない相変わらずのポジティブさ！全く危機感が感じられない。何時も「人生前向き思考！」このポジティブさには本当に感心させられるが、今日は状況が状況だけにそんな悠長な事は言っていられない。バスは取り敢えず新宿バスタ目指して双葉SAを出発。自分も携帯電話で交通事故状況を確認すると、6台が絡む事故で7人が怪我、1名は重体との事。画像を見るとかなり大きな事故で（追突したトラックの運転席（キャビ

ン部分)が潰れて原型を留めない状況)、事故処理には少なくとも数時間が掛かりそうな状況。正に嫌な予感が的中した。事前に鈴木教授からは「事故等のトラブルで遅れて 4 人ものキャンセルが出るのは怖いのもっと早い便に乗り、早く着いた分浜松町で飲んだ方が賢明では? 或いは安全に「あずさ」を選択するか?」とのアドバイスがあったにも拘わらず、何と助言を無視して高速バスを選択。矢張、安全に「あずさ」を選択すれば良かったと思うも…時、既に遅し。今更悔やんでも仕方が無い。運転手さんからも事故の詳細状況は解らないものの、先発のバスも渋滞に巻き込まれているとの事で、調布 IC で降りて一般道で新宿バスタへ向かうとの事。急ぎの乗客は次の日野バス停で降車を勧める旨のアナウンスが入る。

此处で判断を誤ると一大事! 竹芝客船ターミナル大島岡田港行 13 時 30 分発には恐らく間に合わない。若しジェット船が運航すればキャンセル料はジェット船のみならず、二泊分の宿泊費等かなりの高額出費になる。何とかそれだけは回避したい。(この時点ではまだジェット船の運航が調整中とのことで出航は確定していませんでした。)中央道日野バス停まで残り僅かの時間。これは一刻も早い決断が必要だ。日野バス停から竹芝客船ターミナルまでのルート之急いで調べる。ラッキーなことにバス停から徒歩 5 分程の近くに多摩モノレール(甲州街道駅)がある。これなら何とか間に合う。2 人に日野バス停で降りてモノレールで立川南駅→立川(中央線)で東京駅→山手線で浜松町駅→徒歩で~竹芝客船ターミナル向かうことを提案。2 人も酔っているものの二つ返事。快諾を得て日野バス停で下車しました。先を急ぐ乗客は私達同様に数名が下車し、急いで多摩モノレール(甲州街道駅)に向かいました。時刻は既に 11 時を過ぎていました。間もなくしてモノレールが到着し立川南駅で下車、急いで JR 中央線の立川駅へ向かいました。幸いなことに待ち時間もないうちに中央特快に直ぐに乗車でき、東京駅へと向かいました。途中、12 時過ぎには女房からジェット船が運航との連絡と、昼食に美味しい寿司を食べた鈴木教授、義幸君(澤田さん)も浜松町で飲んでいるとの LINE が来ました。

東京駅に到着したのは 12 時 30 分近く。此处からなら間違いなく 30~40 分で十分竹芝客船ターミナルで皆に合流でき、13 時 30 分の出船には間に合います。漸く一安心、アクシデントを無事に回避し間に合うことに 3 人で安堵しました。

竹芝客船ターミナルの少し前まで松尾さんが出迎えてくれました。松尾さんからどうやら私達よりも先発のバスに乗車した H さんを迎えに来たとの事でしたが、H さんは交通事故渋滞で未だ此方に向かっている最中とのこと。私達と同様、調布 IC 付近での事故渋滞で調布 IC を降りるのに時間が掛かったようでした。私達は幸いにも日野バス停で降りる決断をしたことが功を奏しました。それでも此方に向かっているとのことなので、未だ 30 分以上もあるから恐

らく間に合いますよ! と久雄さんの様に楽観的なことを言っていました…! 事の結末は後述。

客船ターミナルには 13 時少し前には到着となりました。先に来られた会員は既に昼食も済ませロビーで待機をしていました。久雄さんは昼食を食べに…! 何ともマイペースだ!

竹原、笹木、村重さんの女性陣 3 名は、9 日(木曜日)にジェット船が欠航になると翌日 10 日の勤務に支障が出るとの事で、残念ながら此处で帰宅されることになりました。此处まで来

られなかった横田さん、吉田さんも同様の理由で残念ながら不参加に、後は 2 名が来るのを祈るような気持ちで待っておりましたが…時間は刻一刻と迫る中 13 時 15 分を過ぎ乗船のアナウンスが流れ乗船客が次から次へとジェット船に向います。

私達会員 14 名も時間ギリギリまで未だ到着していない 2 名を心配しながらも待ち続けました。残念ながら帰宅される女性陣 3 名からの「私達の分まで美味しいもの沢山食べて楽しんで来てね!」と暖かな見守りを受ける中、H、Tさんの到着を更に祈るような気持ちで「何とか間に合ってくれ!」と心の中で叫び続けながらも最後の乗船となりました。



さて、残りの2名の経緯は…と言うと…「Oh my God!…万事休す！」神様は2人に絶望的な時間を与えてしまいました。

Tさんはどうやら9時10分発の「あずさ」に乗れずに残念ながら不参加と相成りました。

また、私達よりはるかに危機管理能力に長けていて、元職業柄交通事情には極めて明るく、更に時間に余裕を持って先発便に乗り込んだHさん、交通事故の影響で渋滞になってしまった場所が悪く、懸命に向かって来たにも拘わらず「in just a minute(僅か1分)」の為に無念の涙を呑んでの不参加となりました。

…それでもジェット船は13時30分には出港せずに若干の猶予を持って待っていてくれたのですが…！後に聞いた話では信号の所まで来ていたそうです。客船ターミナル迄は僅か50～60mくらいの距離なのですが…。東海汽船さん…心遣い有り難うございました。でも…残念ながらジェット船は出港してしまいました。Hさんの心情を察するに…当前のことですが恐らくとても残念だったことでしょう！慰めの言葉もありません！

後の情報はないので解りませんが、帰宅される女性陣3名とゆっくり東京見物でもして美味しいものを食べて帰宅されたのでしょうか？

さて、ジェット船は会員14名(参加できなかった7名の分も大いに楽しんで来ることを誓いつつ…)を乗せて快晴の波穏やかな東京湾竹芝桟橋を期待膨らむ大島へ向けていざ！出港となりました。船は台風の影響もあってキャンセル客も多かった様子で空席が目立ち乗客は割と少ない感じがしました。

乗船後はシートベルトを着用して早速、冷えたビール、缶酎ハイ、ハイボールが配られ山口会長の音頭で他のお客さんの迷惑にならない様に…とは言え声高らかに乾杯となりました。これから大島岡田港に向けて1時間45分の船旅が始まりました。

ジェット船の中では今回新規加入され、初参加となった茅野さん(横浜市在住)から東京湾～三浦半島～房総半島館山沖までの詳細な説明がされ、正に名ガイドさながらでした。茅野さん有り難うございました。



今回私達が快適な船旅ができたジェット船(正式名称はジェットホイル:全没翼型水中翼船)について少しご紹介します。

「大島までは最短1時間45分！早い、揺れない、高速ジェット船で快適な伊豆諸島へ！」がキャッチフレーズ！（竹芝桟橋から大島までの距離は約48海里:約89km ※1海里は1.852km）

東海汽船が所有するジェット船は「友」、「結」、「大漁」の3船、「愛」は惜しまれながらも2025年8月老朽化で引退、総トン数は164t(友)、165t(大漁)、176t(結)、全長27m(翼ダウン時)、巾8.53m、深さ2.59m、馬力380HP×2、最大速力43ノット(約80km/h)、旅客定員254名(友、大漁)、241名(結)船のカラーリングは画家:柳原良平氏(友、大漁)、美術家:野老朝雄氏(結)が手掛けています。往路は「友」、復路は「大漁」に乗船しました。

予定よりも15分ほど早く1時間30分程の乗船で15時過ぎに大島岡田港に無事に到着。航行中は缶ビール350ccを2本空けほろ酔い気分も手伝って、ジェット船はキャッチフレーズ通りに私達に快適な船旅を提供してくれました。接岸してから下船の際には波の影響で船は結構な揺れになり、会長は船酔いしてしまい青い顔で降りていました。もう少し長く乗っていたら危なかったとの事でした。勿論、私は今まで3～4mの波の中での船釣りでも船酔いをしたことが無いので大丈夫でした。

お迎えに来ていたバスで宿泊場所の大島町元町の「ホテル白岩」へ向かいました。館内の

説明を受けた後、夫々の部屋へ移動。今回は松尾さん、茅野さん、義幸君の 4 名の部屋割り。…義幸の軒が…(耳栓は常に持参しているので…良しとしよう！)

荷物をほどいて早々に温泉へ、男湯の内湯(白樺の湯)に露天風呂(白樺の露天風呂)。女性風呂の内湯は(赤樺の湯)、露天風呂は(赤樺の露天風呂)。

皆さんご存じの通り大島は昭和 61 年の三原山大噴火の際に噴出した天然の恵みの温泉として知られています。泉質、泉温はナトリウム塩化物温泉と言うだけあって少々しょっぱい味がしました。太平洋諸島の温泉で 26 度と温度が低いので勿論沸かし湯で、効能は神経痛、胃腸、外傷骨折火傷、痔、婦人病、運動機能障害 etc…数えたらキリがない！ナトリウム温泉だけにつまり…何にでも効くという事らしい。少々ぬるいお湯なので長時間入っていました。確り温泉に浸かり、予期せぬ様々な出来事があった今日の出来事を振り返りながら長旅？の疲れを落とし部屋に戻って、夕食の 18 時まで冷えたビールで喉を潤しました。参加できなかった皆さんの分も大いに楽しんで帰ろう…！と自分に言い聞かせながら…！



18 時からはいよいよ本日の夕餉！時間が無くて昼食を食べていなかっただけに太平洋の海の幸が楽しみ。宴会会場へ移動し引きで着座。流石、太平洋の島、大島。刺身はマグロ、ブリ、ハガツオ、メダイ、ムツ、イサキの 6 種類。何れも綺麗で新鮮だ。

山口会長の挨拶、熊谷副会長の乾杯の音頭で楽しい宴が始まり大いに飲んで食べて皆さん満足し部屋に戻り二次会の開催となりました。私は食べきれなかった刺身を漬け丼にして

部屋に持ち帰りました。部屋での宴会では矢張り話題は交通事故での渋滞による遅延、台風の進路予想と明日の日程調整確認、9 日帰宅時のジェット船の運航状況等…堀内さんの自宅の栗で作った手作りの「栗きんとん」も振舞ってくれて 21 時まで大いに盛り上がりました。私は寝る前にもう一度温泉に入り早目の就寝となりました。

明日の大島の天気は台風の影響もなく穏やかな 1 日になるとの予報。当初は三原山登山、島巡り、船釣りの 3 コースを予定していましたが、船釣りコースを取り止めて三原山登山と島巡りを合わせて全員一緒にレンタカーで登山、名所観光等へ切り替えることとなりました。

さて軒はというと…布団を広縁に移動させて頭は皆さんと反対側に向け耳栓着用で熟睡できました。…当日に 7 名ものキャンセルといういまだかつてないドタバタ劇？…慌ただしかった 1 日が無事終了しました。



8日水曜日：2日目

何時も通りに 5 時前には目が覚めるも…未だ皆さん昨日の疲れなのか就寝中。温泉は 6 時からなのでそれまで布団の中でスマホのニュース、今日の大島の天気予報等を見ながら待機。6 時少し前には温泉へ向かいました。露天風呂には鈴木教授ただ 1 人。昨日の珍道中？に今日の予定を話しながらゆっくり温泉を堪能してから 7 時の朝食会場へ向かいました。

朝食を終え、8 時 30 分出発まで待機(温泉に行かれた方もいました)。



9 時前にはレンタカーを借りて来てくれた者(鈴木、塩沢、渡邊(教))が戻りホテル前で集合写真を撮影し 2 台のレンタカーに分乗して御神火スカイラインを三原山へ向けて出発しました。ホテルから 15 分程で三原山外輪山展望台駐車場へ到着。お天気も良く富士山もはっきり見られ、集合写真を撮影してからいよいよ三原山への登山(トレッキング)開始。目的地の火口展望台へのコースタイムは随分遠くに見えている割には思いの外近く、山頂遊歩道(舗装道路)で1時間弱、更に火口西展望

台までは(舗装道路)で 10 分弱との案内看板がありました。途中溶岩流等の説明が出ている個所を何ヶ所か見学しながら展望台を目指します。35 分程で三原神社の鳥居へ到着。三原神社は元来、社殿はなく、三原山事体が大明神として尊称されていた様ですが何時の頃か山頂に小祠が設けられ、大正中頃には内輪山の中腹に社殿が建立されたとの事。昭和 25~26 年にかけての噴火で社殿は溶岩流に埋まってしまった様です。山頂の小祠は無事で後に建て直されたようですが、鳥居から下って行くので見られませんでした。

「天空に浮かぶ絶景の神社」と称される三原神社。この日は天気が良かったので、鳥居の正面に富士山が見えて集合写真を撮影しました。



更に展望台へと向かい集合写真撮影をした後、田下さんが一生懸命背負ってきた冷えたビールで喉を潤し、一息入れてから火口西展望台へ向かいました。残念ながら火口直下は見られませんでした、今もなお煙があちらこちらで噴出していました。1986 年 11 月の噴火に



より連日ニュース、新聞等で放映、報道されました。噴火と共に溶岩流が発生し全島避難(幸いにも死者なし)が行われた凄まじい状況を思い起こしながらも有難いことに約 40 年後に見られることとなりました。

今回は時間の関係からお鉢巡り(火口の縁を一周するコース:全長 8 km弱、所用時間約 3~4 時間)はせずに来た道を帰りました。快適に 30 分弱で駐車迄戻り程よいハイキングとなりました。またまた冷えたビールで喉を潤し次への目的地の地層大切断面(巨大バームクーヘン)へと向かいました。30 分程で

到着。高さ約 24m、長さ 63mの圧倒的なスケールの「地層切断面」が目の前に出現、「なるほど!これは正にバームクーヘンだ!」

過去約 1 万 8000 年の間に繰り返し起こった大噴火、100 回以上の噴出物が巨大な縞模様を作りあげました。…ということは、100 年に一回以上の大きな噴火が繰り返し起こっているという事実。40 年前にも全島避難したのに、此処に住み続けている島民は島への愛着心が強くまた何と辛抱強いことか!この地層は 1953 年(昭和 28 年)、島の一周道路を建設するため山を削った際に偶然に発見されました。此処でも集合写真を撮影してから昼食場所へと向かいました。

昼食場所は波浮港(はふみなと)見晴台手前の大島町差木地字クダッチの「大関寿司」。実はこの「大関寿司」友の会会員の「レイダーの哲こと:長瀬哲也さん(※レイダーとはヤマハレイダー(XV1900CU)オートバイの名称)でこの単車を所有しております。」の愛娘(N海さん)と一緒に働いているお友達?(M弥さん)の推薦で此処に来ることになりました。山口会長曰く、実は長瀬さんの娘さんが此の大島で働いているとの事で三原山ハイキング後、山口会長



が娘さんに連絡を取って「大関寿司」を紹介されて予約をしてくれました。

12 時前には「大関寿司」に到着。三原山トレッキングでお腹も空いているし、口コミの評価も高く、地元では美味しい寿司屋さんで通っている名だたる名店だけに益々期待は膨らみます。今回の現地研修会の冠にもなっていますが「新鮮な魚介を食す旅！」の名前に相応しい清潔感漂う綺麗なお店でした！

まずはビールで乾杯。旨い！トレッキングの後だけ

けに正に五臓六腑に染み渡ります。

お寿司は特上寿司(中トロ2貫、帆立、赤海老、穴子、雲丹軍艦、いくら軍艦各1貫、ねぎトロ巻(ネギトロにキュウリのコンビ)4個)に別注文の鰓甲寿司2貫(女将さん曰く今回はメダイとのことでした。)…は特に大島の名物寿司でその日仕入れた白身の魚を鰓甲醤油(醤油、島唐辛子等)に漬け込んだ所謂「づけ握り」でピリッと青唐辛子(島唐辛子)の辛みの効いた味わい深い寿司で皆さん大絶賛でした。多くの会員は海なし県の長野県故に、新鮮でとろけるような触感と甘みのある奥深い味に大満足でした。ご紹介いただいたN海さん、M弥さん…本当に美味しかったよ！良いお寿司屋さんを紹介してくれて有り難うねえ！感謝、感激でした。



お腹も膨れた所で午後は更に島内の名所巡りを…と思いきやその前に、「大関寿司」をご紹介いただいたN海さん、M弥さんが共同経営している「島ぐらしカフェ chigoo hagoo(ちぐはぐ)」にお礼を兼ねて表敬訪問することになりました。

建物は大島差木地、大関寿司から地層大切断面(巨大バームクーヘン)方面へ先程来た道を5分程戻り大島一周道路から少し内陸側に入ったところに。13時前には到着。今にも映画や朝の連続テレビ小説に登場するかのような昭和レトロ感たっぷりのノスタルジックな平屋の佇まい。



入店すると綺麗に掃除が行き届いているこじんまりとした二部屋と縁側廊下。14名もの人が一同に入るのは恐らく開店以来初めてでしょうか。今回は一団体なので…(5名以上座れる席はなし)

早速2人にご挨拶をいただきました。お聞きすると岡田でカフェ宿を経営していましたが、2024年8月に隣家から火災が発生して、「カフェ宿ちぐはぐ」に燃え移り宿は全焼してしまったとの事でした。(幸いにも宿泊客含め怪我人はなかったとのことでした)コロナも収束し漸く順調になって来た矢先のことで、直後は正に茫然自失の状況だったとのことでした。それでも何と2人で力を合わせ、2025年4月20日に、この場所に小さなカフェを再オープンさせたとの事。

また、カフェ内には大島の塩、アクセサリー、地元の方々が造られた雑貨等が並べられ販売もされていました。また時々フリマもやっているそうです。

早速、引き立ての芳醇な香りのコーヒーと海老芋のスコーンが提供され、美味しくいただきました。その最中でも気掛かりな事案が…それは明日9日(木曜日)のジェット船の運航状況と同時に宿泊場所の選定でした。鈴木教授が現在宿泊しているホテルに連泊を御願ひするも、現時点では既に予約が一杯でキャンセルが発生しないと私達は連泊ができないとのことで、宿泊場所の確保に随分苦慮されていました。N海、M弥さんにも宿泊場所を紹介いただくも、ゲストハウスやコンドミニウムとのことで保留させてもらい、ホテルが連泊できなかった際にお



願いをすることになりました。

9 日(木曜日)ジェット船の欠航が決定しました。これで私達も大島に 9 日の滞在が決定となりました。それにしても…ジェット船が欠航なので新たなお客は来られるはずもないのに、何故連泊させないのだろうか？ホテル曰く、どうやら予約しているお客さんから直接キャンセルをされない限りは新たな予約の受付ができないとのことでした。…後にホテルから連泊可能との連絡が入り一同一安心となりました。

新たなご縁をいただき、美味しいお寿司屋の紹介と美味しいコーヒーいただいたお礼にアクセサリー(大島の満月の塩入り)、大島の塩等を沢山購入させていただきました。(勿論、女房には一番高額で見

栄えが良い大島の満月の塩入りのピアスを…！)

「chigoo hagoo(ちぐはぐ)」で小一時間ゆっくりしてから玄関前で集合写真を撮影しようとしたところ会長から「wait a minute:一寸待て!」と言。看板が曲がっているので折角なので少々手直しをしてから撮影すること！どうやら長年培って来た登山道整備の血が騒ぐらしい！建物脇から修復資材のハンマー等を持って来て突貫工事ならぬ修繕。「chigoo hagoo」の木製看板も確り鎮座して、新たなお客さんを迎えられることでしょう！



今後は、また宿もやりたいと頑張っていましたので、

ぜひ皆さんも 2 人の為に大勢に紹介いただきご支援、ご協力をお願い致します。

集合写真撮影を撮影してから 2 人の見送りを受けながらも次の目的地の波浮港(はぶみなと)見晴台へ向かいました。



10 分程で波浮港(はぶみなと)見晴台へ到着しました。波浮港(はぶみなと)と言っても皆さんピーンと来られる方々は少ないかと思いますが、都はるみの「アンコ椿は恋の花 作詞: 星野哲郎、作曲: 市川昭介」と言えばご存じの方々も多くおられるのではないのでしょうか。

そうですあの歌詞に登場する「三日おくれの 便りをのせて船が行く行く 波浮港(はぶ港)」の波浮港なのです。

波浮港は、元々 9 世紀の噴火でできた火口湖「波浮の池」でしたが、1703 年の地震(元禄地震)津波で池の一部が崩壊し、江戸時代に商人の秋廣平六が開削工事を行って 1801 年に開港しました。天然の良港として栄え、現在は漁港として利用されています。

波浮港を見下ろせる見晴台で波浮港をバックに集合写真撮影を撮影し、次への筆島見晴台へと向かいました。

筆島は海岸から 50~60m 海に突き出た高さ 30m 程の岩で、その名の通り筆先のような形をしています。

荒波に耐える姿から「神の宿る岩」とも言われています。因みに「筆島」の名前は、見た目通りに筆の穂先の様に見えることからこの名前が付けられたとのこと。

海と山に抱かれ伊豆大島全体がパワースポットと言っても過言ではありませんが、その中でも一際有名なパワースポットで知られているのが「筆島(ふでじま)」です。

此处で十分なパワーをもらってから三原山裏砂漠へと向かいました。

大島のほぼ中央になだらかに聳える「御神火」こと三原山。その東側一帯には地表を黒い火山岩(スコリア)で覆われた「裏砂漠」が広がっています。伊豆大島は富士箱根国立公園に

属し、「裏砂漠」周辺は特別保護地区として車両の乗り入れが禁止されており、自然環境や生態系が十分に保護された地区になっています。途中で「キョン(特定外来生物)小型の鹿」、「タイワンザル(外来種)」、「タイワンリス(特定外来生物)」も見られました。30分程で駐車場に到着、ここからは徒歩で展望台をめざしました。案内看板を見ると第一展望台までは 0.7 km、第二展望台までは 1.2 km。ご丁寧に歩道入口には杖が沢山用意されていました。全員で第二展望台に向けて出発。ジャッ、ジャッと歩くと聞こえてくるスコリアの音を聞きながら途中、昭和 27 年 4 月 9 日我が国初の旅客遭難機となった日本航空「もくせい号」は(乗員 4 名、乗客 33 名)を乗せ、大阪経由福岡行きとして羽田空港を飛び立ちましたが、事故当日の天候は極めて悪く、視界ゼロに近い状態であったことから激突したこの場所を通り抜け、15 分ほど歩くと第一展望台に到着、更に 3 分程で第二展望台へ到着。



「裏砂漠」は国土地理院発行する地図に唯一「砂漠と」表記された場所です。三原山の度重なる噴火によって降り注いだマグマのしぶきが大地を焼き、植物を燃やし、一面黒い世界を作りあげてきました。噴火後も風が強く吹き抜ける場所であるため、植物が定着しにくく正に「砂漠」の名に相応しい光景が広がっていました。

国立公園、数十年に一度の噴火等が無ければ、斜面に観客席を設け、下の平らな場所には様々な競技場が幾つもできて、10 万人どころか 30 万人でも入れるのに何か活用できないかなあと思いつつ、此处でもまた集合写真撮影を撮影して駐車場へもどりました。

本日最後の名所見学、「泉津の切通し(せんずのきりとおし)」に向けて出発、帰りにもキョン、タイワンザルを目撃して 16 時前には到着しました。島の東側に位置する「泉津」には、神話や伝説の舞台となったパワースポットや、海岸沿いの美しい風景が広がる絶景遊歩道などが点在しています。

「泉津の切通し(せんずのきりとおし)」は 2 本の巨木の太い根ががっちりと大地を掴み、力強く空高く伸びる幹。まるで意志を持ったかのように縦横無尽に成長を続ける姿に圧倒されます。周囲が苔を覆い独特な景観をつくり出しています。自然の力強さ、逞しさ、そして美しさを伝えてくれるパワースポットでした。皆さんどんなパワーをもらったのでしょうか？

見どころ満載の予想以上に充実した昼の部は終わりに近づきました。宿の確保ができていことから安心してホテルに戻れます。途中、部屋で飲む酒、摘み、御土産類をスーパーで買って宿に戻る事になりました。スーパーではお昼に寿司屋で食べた鰐甲寿司が並んでいました。鯛、鰯、メダイがありましたが 1 貫 200 円前後で売られていました。また、大島特産のくさや、島唐辛子もあったのでお土産用に購入しました。



17 時前にはホテルに戻り早速温泉に入って今日の一日の疲れを落とし 18 時からの宴会となりました。

今日は刺身が船盛りで出されました。マグロ、ブリ、ハガツオ、メダイ、ムツ、イサキ、オナガダイの 7 種類。昨日より 1 種類(オナガダイ)が追加され、昨日同様何れも綺麗で新鮮。昨日の皿盛りよりも矢張り船盛は見栄えがして最高！

刺身は昨夜同様でも刺身以外の品は変えてくれてあるので連泊でも有り難い。明日も泊ま

るのでまたまた楽しみだ！

熊谷(旦那)さんの誕生日と言うこともあって皆で祝福し、大いに賑わっての宴会となりました。宴会後は部屋に戻ってサプライズで用意されたショートケーキが全員に配られお祝いの宴が続きました。



9日木曜日：3日目

本日も何時も通りに 5 時前には目が覚めるも…未だ皆さん昨日の疲れなのか就寝中。温泉は 6 時からなので昨日同様にそれまで静かに布団の中でスマホのニュース、今日の大島の天気予報等を見ながら待機。6 時少し前に、松尾さんと温泉へ向かいました。露天風呂に誰も居ないので 2 人の貸し切り状態。露天風呂で昨日から大声で鳴いていた鳥の正体も鳥ではなく、台湾リスと判明しました。松尾さんと今日の予定や現役時代の話や聖地巡礼の話などしながら、ゆっくりと 1 時間以上も温泉を堪能したため、少々湯あたり気味になりながら、7 時 30 分朝食会場へ向かいました。

本来であれば今日が帰宅の途に着くはずでしたが、台風の影響でジェット船の欠航が昨日決まり、今日は大島に滞在し、昨日同様に島の名所巡りになりました。

朝食を終え、8 時 30 分出発まで待機し、本日最初の名所？国指定特別天然記念物の大島のサクラ株に向かいました。サクラ株は地元大島では、「サクラカップ」と呼ばれ親しまれています。日本に生息するオオシマザクラの中では、最も古い樹齢 800 年と言われて、1952 年(昭和 27 年)国の特別天然記念物に指定されています。その昔は房総方面から来航する船が目印にしたと言われるほど巨木だったそうです。いつしか幹から分岐した太枝が倒れ、これが根付いて 3 本の子株となって生育しています。特異な成り立ちと樹形をしています。伊豆半島の豊かな自然と温暖で湿潤な気候、そしてこのサクラの強い生命力がなし得た、稀有な姿と言えます。



このオオシマザクラ「サクラカップ」は龍がのたうち回っているような姿がとても特徴的で、4 本の株(親 1 本、子 3 本)は各々別の木に見えますが、元々は真中の元株と呼ばれる親木だけが生育していたもので、何時しか倒れた太枝が各々別の株として根付いたものだと言われております。確かに言われる通り……龍の形に見えないことはありませんが……！それでも見た目では樹勢は随分弱そうなので老齢木故、何時まで生き永らえることができるでしょうか？気のせいでしょうか？老齢

木のこのオオシマザクラから漲るパワーをもらったのでしょうか？皆さん多少若返った様な……笑顔で集合写真を撮影してから次の場所へと車を走らせました。

15 分程で本日 2 か所目の目的地、海のふるさと村「東京都立大島公園」に到着。早速、動物園に向かいました。何と驚いたことに入場料が……0 円！えっ……0 円！流石 1,400 万人を抱える東京都！日本の人口の 11%を占めるだけに納税額も膨大で裕福な地方公共団体……何とただとは！皆さん一同に太っ腹だなあ！と感心しながらゲートを入りサル島へ、此処にはワオキツネザル(マダガスカル島南部生息)、バーバリーシープ(北アフリカ生息)が一緒にいました。掃除をしていた係員がこれから餌をやるとの事で餌場まで移動して暫し見入っていました。その後、ゲージ



の中の鳥類などを見てから集合写真を撮影し、椿資料館に行き担当者から椿の精油、大島紬等の説明を聞きました。十分堪能できたので皆さんからは「入園料は 100 円でも 200 円でも 500 円くらいなら飼育員、担当者の為に支払っても良いのでは！」と異口同音に同意。1 時



間半にわたり楽しめた大島公園を後にしました。

向かった昼食場所は元町野地。大島空港の滑走路をくぐり抜けて海沿いに向かった場所に昼食場所がありました。

さて昼食場所ですが、実はこのお店を紹介してくれたのは前日に大関寿司を紹介し、コーヒーと海老芋のスコーンを食した「chigoo hagoo(ちぐはぐ)」のオーナーのN海さん、M弥さんが勧めてくれたお店です。流石島民！

大島公園を出発した時に予約を入れた際には満席との

事でしたが、殆ど待つことなく入店。玄関先には名物料理のメニューが所狭しと貼り付けてありました。3 テーブルに分かれて着座、早速ビールで乾杯。大島名物のくさやから始まり島唐辛子入りの塩辛、明日葉天婦羅、ジャンボエビフライ、鼈甲寿司をお摘みに……くさを追加注文し、お店のお勧めの日本酒も確り飲んだ後、300gの岩ノリのジャンボおにぎり、各種定食、ラーメン、蕎麦等を食べ更にメのコーヒー、紅茶(デザート付)まで確り平らげ全てが大満足でした。N海さん、M弥さんが勧めてくれたお店に間違いはありませんでした。流石島民！ありがとうねえ！お腹も膨れ十分堪能したところで、次の大宮神社へ向かい無人の社に参拝してから本日の最終目的地である「伊豆大島ミュージアム～ジオノス～(伊豆大島火山博物館)」へ行きました。リニューアルされた施設はまだ新しく綺麗で、1 階は企画展示室、体験教室、伊豆大島に関する情報が収集できるエリアに分かれた交流ゾーン、2 階は常設展示ゾーンに分かれていました。常設展示室には、火山・地質関連、植物関連、人関連の 3 つに分かれていました。伊豆大島の成り立ち、火山噴火のメカニズム等。更には「活火山の島」という大地で形成された人の暮らしや文化、歴史、災害、防災等々大人から子供まで分かり易いグラフィックパネル展示、デジタル技術を活用した展示、触って学べる展示など、もっと時間が欲しいくらい充実した展示がされていました。老婆心ながら今後、大島を訪れる会員の皆さんへのアドバイスとしては、島内観光する前に是非ともこの施設で半日くらい時間を掛けて、島を十分知ってから島巡りをすれば満喫度は更に高まること間違いなしです。

15時半頃ミュージアムを後にし、徒歩で宿へ向かうこととなりました。ホテルに帰る途中でスーパー、椿油のお店で、くさや、島唐辛子、椿油等の土産を沢山購入してから宿へ戻りました。早速、温泉に入り今日の疲れを癒し18時から夕食となりました。ホテルも3泊目とのことで料理も変えて流石に刺身、刺身、刺身では……三連荘から串揚げに変更してくれ、大島宿泊最終日の宴が続きました。宴会後は恐らくまた部屋で盛り上がったことと思いますが、私は合流せずに温泉に入って21時前には就寝となりました。勿論、最終日も布団を広縁に移動させて頭は皆さんと反対側に向け……耳栓無しで熟睡できました。

10日金曜日:4日目……最終日

楽しかった大島の現地研修会も本日が最終日。今朝も何時も通りに目覚ましなしで5時前には目が覚めるも…今朝も未だ皆さん昨日の疲れなのか就寝中。布団の中でスマホのニュース、大島の天気予報等を見ながら待機。6時少し前には温泉へ向かいました。露天風呂には既に何名かが入浴中。大島での最後の温泉を堪能してから7時30分朝食会場へ向かい大島最終日の朝食を美味しくいただきました。



9 時過ぎにホテルのバスで岡田港へ送ってもらい 10 時 40 分発の東京竹芝客船ターミナル行きのジェット船が出航するまで、港近くのお店で買いそびれたお土産をここでもまた沢山・・・最終購入し、缶ビール、摘みを購入してから時間迄待合室で待機していました。

岡田港で事前予約していた船釣店の方から聞いた話では、私達が海釣りをキャンセルした 8 日。この日海に出た船釣り客は台風の影響もなく割と波は穏やかな状態で 10 kg の勘八等



を上げて大漁だったとの事でした。少々残念な気持ちではありましたが、14 名統一行動ができたのでこれはこれで良としましょう！

10 時 15 分過ぎ突如、N 海さん、M 弥さんが島唐辛子味噌（信州みそとのコラボ）の御土産を持ってお見送りに駆けつけてくれました。

この 2 人が美味しいお店を紹介してくれたお陰で、この現地研修会が楽しさを倍増させてくれたことに間違いありません。

更に最終日にはサプライズのお見送りにお土産迄！

何とも有難い限りです。

2 人を入れて皆で大島での楽しかった沢山の思い出を胸に集合写真を撮ってから間もなくして乗船となりました。10 時 40 分 2 人の見送りを受ける中、ジェット船（大漁）が出航しました。出航したジェット船を追いかけるように、2 人が岸壁を走りながら見えなくなるまで手を振って見送ってくれました。ジェット船は往路同様に快適な船旅を提供し、12 時 20 分過ぎ無事に竹芝桟橋に着岸し、楽しくも様々な出来事があった珍道中の現地研修会が無事に終了しターミナルでの解散となり、各々帰宅の途につきました。



P. S

私達（佐藤、小林、田下、渡邊）4 名は、浜松町で昼食がてらに反省会ならぬ懇親会を佐藤さんお勧めの焼鳥屋で開催し、新宿バスタ発 16 時 25 分発に乗車、勿論車内で飲み続け 19 時 50 分には無事に松本バスターミナルに到着しました。

今回は、交通事故による高速バスの遅延、台風の影響によるジェット船欠航等 7 名もの方が急遽参加されずに誠に残念ではありましたが、心に残る楽しい現地研修会になりました。参加されました皆さん 4 日間に亘り楽しく過ごさせていただき有り難うございました。

参加されなかった皆さんに楽しく面白かった様々な珍道中を詳細にお伝えしたいが故に、今回もまた長々と纏まりのない稚拙なレポートになってしまいましたがお付き合いいただき感謝申し上げます。

レポーター：ペンネーム：瀬祭 036（DASSAI036）ことドラえもん

第77回現地研修会

「伊豆大島三原山に登り新鮮な魚介を食す旅」報告 その2

茅野 英一

台風第22号と正面から向かい合って2泊3日が3泊4日となった現地研修会の報告を新入会員で研修会初参加の茅野が報告します。(本稿の行動時刻は茅野のスマホの記録をそのまま使用した。)

【第1日】10月7日(火)

13:31 竹芝客船ターミナル出港～ジェット船「友」～15:15 伊豆大島岡田港着～送迎バス～15:34 ホテル白岩着

今回の研修会は、台風22号の直撃を受け、出発前から様々なドラマが展開された。まず、鈴木先生から前日の6日に「帰路は台風の動きが速まると欠航の可能性があります。その場合は、台風が抜ける10日の帰路になるかも知れません。」とのメールがあった。10日に仕事や所用がある方は、この時点で断念されたり7日に竹芝桟橋まで来て判断されたりで、7名が不参加になり、当初21名の参加予定が14名となった。

その中であって、中央高速バスで向かっていた2組4名にもドラマがあった。午前8時ごろ中央自動車道上りの調布インターチェンジ付近で起きた6台が絡む死亡・重傷事故により大渋滞が発生し、それに巻き込まれたのだ。W氏ら3名は機転を發揮して大胆な行動に出た。何と日野バス停で高速バスを下車し、徒歩で多摩モノレール甲州街道駅に向かったのだ。モノレールで立川駅へ、中央線・京浜東北線と乗り継いで竹芝桟橋にたどり着いたのは13時少し前であった。W氏らより1本前の高速バスで向かっていたH氏は、鈴木先生が出航を少し待ってと頼んでいたが、僅かに出航に間に合わず不参加となった。

大島へは東海汽船のジェット船「友」で向かった。この船は大島まで最短1時間45分、“早い” “揺れない”がご自慢で、最大速力43ノット(約80km/h)旅客定員254名で、ジェットエンジンで海水を吹き出し、水中翼で海水から揚力を得て飛ぶいわば「海のジェット機」である。だから、離陸ならぬ離水、着陸ならぬ着水と言うのである。逆に、低速時は安定せず風にも波にも弱いようだ。

東京湾を順調に飛行ならぬ翼走して定刻に岡田港に入港した。ホテルの送迎バスでホテル白岩には15:34に着いた。

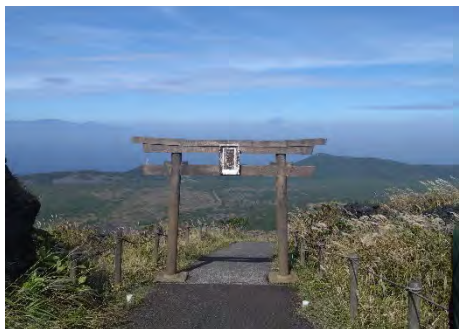
伊豆大島は、東京から約120kmの太平洋上に位置する伊豆諸島最大の島で、活火山の三原山を擁する「火山とジオの島」で、行政区域としては東京都大島町で、現在人口約8000人を切ったこの島も、かつては1万人を越す大きな島だったそうだ。

【第2日】10月8日(水)

08:55 ホテル白岩発 09:14 山頂口駐車場 09:23 09:35 溶岩流展望地 09:36 09:54 三原神社 09:56 10:02 火口展望台 10:11 10:15 火口西展望所 10:16 10:32 三原神社 10:34 11:02 山頂口駐車場着 11:35 地層断面 11:44 11:54 大関寿司 12:44 12:49 島ぐらしカフェ chigoohagoo(チグハグ) 13:45 13:54 波浮港見晴台 14:01 14:07 筆島見晴台 14:13 14:28 裏砂漠 15:35 15:52 泉津の切通し 15:58 1609 スーパーげんろく 16:15 16:21 大島ストア 16:26 16:34 ホテル白岩着

当初は3班に分かれて行動する計画であったが、レンタカー2台に分乗しての同一行動となった。運転手は2日間ともS氏とW女史であった。お疲れ様でした。

宿を08:55に出発し三原山山頂口駐車場に着く。駐車場は三原山の大きな外輪山にあり、



いったん火口原に向かって下りとなる。火口原には溶岩流を示す岩塊やシェルターが点在している。三原山山頂に向けての登りにかかる。傾斜がきつくなりジグザクを数回繰り返すと、火口にある三原神社に 09:54 に着いた。富士山をはじめ大展望と記念写真を撮る。シェルターを兼ねている火口展望台に登り、火口西展望所に行って、三原山噴火口を研修する。11 時には山頂口駐車場に戻る。

11 時半に地層大切断面、通称バウムクーヘンに着く。沿岸を走る大島一周道路沿いにあり、高さ約 24 メートル、長さ 630 メートルの圧倒的な大きさで見る者に迫ってくる。まさに三原山の噴火の歴史を地層の重なりで表現しているが、繰り返される大噴火の噴出物の重なりであり、主にスコリアや火山灰から成っている。昭和 28 年の一周道路の建設中に偶然に発見されたものだそうである。



昼食会場は「大関寿司」である。美味しい島のお寿司をいただくが、中でもべっこう寿司が美味しかった。べっこう寿



司は、島唐辛子の醤油ダレに白身の刺身を漬け込んで握ったもの。ピリ辛の漬けダレはワサビの代わりに島唐辛子を使ったのが始まりで、その鮮やかな色からべっこうと名付けられたとか。

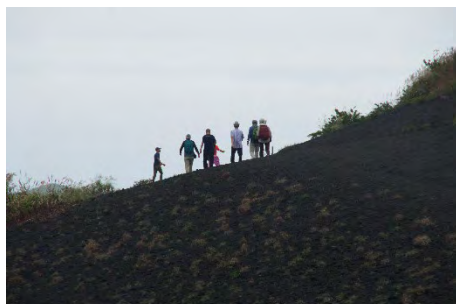
差木地の古民家を改装した小さなカフェ、「島ぐらしカフェ chigoohagoo(チグハグ)」に山口会長のご提案で寄る。このカフェは、長瀬さんのお嬢さんのN海さん(松本市出身)とM弥さん(大島出身)が営むお店である。岡田港の傍でカフェ・宿を営んでいたが、火災で焼失し、令和 7 年4月にカフェとして再オープンした。お二人の暖かさと島を愛する気持ちが伝わってくるおもてなしを受けた。「大関寿司」も翌日の昼食会場「まんたて」もお二人から教えていただいた。



出典 <https://chigoohagoo.com/>

一周道路沿いの筆島を望む駐車場に停める。筆島は海から突き出た高さ 30 メートルほどの岩塔であり、筆先のようにもある。この岩は三原山よりも古い筆島火山のマグマの通り道である火道が、海蝕に耐えて耐えて残った岩頸(がんけい)と呼ばれる地形だそうである。

月と砂漠ラインを通して裏砂漠へ向かう。真っ黒なスコリア(火山灰)が全面に広がる斜面を”ジャッジャツ”と足音を立てながら第 2 展望台に登る。ここはなんでも国土地理院発行地図で唯一「砂漠」と表記されている場所とのことで、



大島を象徴する圧倒的な風景を堪能した。

泉津(せんづ)の切り通しに行く。日本の巨木に挟まれた自然の力強さと神秘的な雰囲気の魅力とのこと。大島の観光ポスターにも採用されている。

地元のスーパーマーケットに下見と買い出しを兼ねて2か所に立ち寄って、ホテルには16:34に戻った。

翌9日のジェット船の欠航が確定した。ホテルはそのまま延泊だと思っていたのだが、何故だか、延泊不可との話。その後、延泊OKで部屋もそのままとなった。



【第3日】10月9日(木)

白岩発 08:55 09:50 大島公園動物園 11:15 11:28 岡田港 11:35 11:46 四季の味まんたて 13:44 13:50 げんろく 13:55 14:13 大宮神社 14:24 14:30 伊豆大島ミュージアム 15:17 15:30 ショッピングセンター 15:57 16:05 白岩

ジェット船は欠航したが、昨日に続き、今日もまずまずの天気だ。まさに「天気晴朗なれど波高し」である。ホテルを08:55に出発し、島の反対側にある東京都立大島公園動物園に向かった。



「大島に都立の動物園?」「そこに行くの?」と思ったのは、私だけではなかったと思うが、実に楽しく有意義なひと時であった。バーバリーシープとワオキツネザルが飼育されている広大な展示場、なんと1周約300mに及ぶ広大な溶岩の地形を使った国内最大級のサル山である。ここでW女史が餌やりにできた飼育員に声掛けしていくつも質問をしていただいたおかげで、飼育員からワオキツネザル解説を受けることができ、楽しく勉強になった次第である。W

女史に感謝である。その他にも約50m四方の巨大なフライングケージでフラミンゴ、さらにはゾウガメ、オジロワシなどかなり楽しめたのである。

昼食は「四季の味まんたて」に行く。べっこう寿司、明日葉(あしたば)の天ぷらや、くさやなど楽しんだ。

大宮神社に立ち寄って、伊豆大島ミュージアムに向かう。「島全体が博物館」というコンセプトで、伊豆大島の大地の成り立ちや火山の歴史を学べる体験型ミュージアムで、7月にリニューアルオープンしたばかりである。なかなかの見ごたえがあった。ここでレンタカーを返しにS氏とW女史が行き、その他のメンバーはここから徒歩で、お土産を物色しながらホテルに向かった。

【第4日】10月10日(金)

ホテル白岩発 09:09 09:32 岡田港 10:42~ジェット船「大漁」~ 12:25 竹芝客船ターミナル着

ホテルの送迎バスで少し早めだが、岡田港に送ってもらう。三々五々買い物などして出航を待っていると、なんとチグハグのN海さんとM弥さんがお土産まで持って見送りに来てくれたのである。今回の研修では、お二人にお店のご紹介など様々お世話になって、お見送りもしていただき、本当に感謝である。島の駐在さんも警備に出てきたのだろうが、両手を振って帽子を振って、お二人と一緒に見送ってくれた。これが島なのだろうか。

往路のジェット船は「友」で帰路のジェット船は「大漁」である。台風22号と高速事故で始まりから翻弄された現地研修会であったが、素敵な新しい「友」のおかげで、研修会の成果はまさに「大漁」であった。

第 76 回現地研修会

「蝶ヶ岳と常念岳」報告 その 4

熊谷 久

本年の 4 月 5 日(土)に開催された友の会総会の 2025 年度 事業計画で、蝶ヶ岳と常念岳の縦走が発表されたときに、常念岳に再挑戦できる期待と体力的な不安が頭の中で交錯して、ずいぶん悩んだことが思い出されるが、7 月 14,15 日の涸沢談話会で山歩きの自信を取り戻したので、2 年振りの蝶ヶ岳と 37 年振りの常念岳登山を決意した。

8 月 26 日は天候に恵まれて、本会の会員 9 名と共に三股からの快適な登山をスタートした。歩き出して 40 分ほどで“ゴジラの木”に到着。ここから“まめうち平”迄の急登と木製階段が辛い。階段を整備してくれた神谷圭子さんに感謝しつつ「何でこんな辛い思いをして山に登らなければならないんだ」と何時もの自己問答。“まめうち平”から“最終ベンチ”までの 2 時間も急登と階段が続く。誰かさんの「もうチョットだ」は、もう信用しないが“最終ベンチ”から 30 分程で大滝分岐に到着。他のパーティの女性が「蝶ヶ岳まであとどの位ですか」と聞いてきたので「後 10 分」と答えたら、そのパーティの男性が「10 分で行けるわけない。」とご立腹。でも 10 分なんですよ。ここから吉田君と一緒に蝶ヶ岳山頂を目指して 14:10 に登頂。槍・穂高連峰は残念ながら雲の中。

蝶ヶ岳ヒュッテに到着してすぐに黒い蝶のTシャツを買い、汗で重く湿ったシャツから着替えて生ビール。脱水症状を改善するために体重 80kg×6 時間×5=2.4ℓの水分補給。(十六茶の 600cc を引いた 1.8ℓのビールが必要なのだが・・・)このために 6 時間、辛い思いを我慢して登ってきたのである。

翌 27 日は、5:15 の御来光を拝んでから朝飯を済ませ、強風の中 7:00 発。今日も槍・穂高は雲の中。蝶ヶ岳には 50 分弱で到着、ここから常念岳の登り口までのアップ・ダウンが結構キツイ。それにも増して、常念岳頂上までの 2 時間が岩だらけで歩きづらかった。常念岳頂上には 12:30 頃到着。私として 37 年振りの常念頂上である。残念ながら登頂に合わせるように雨が降り出し、雷鳴も聞こえてきたので、レインウェアを着て常念小屋に下る。顔が痛くなる雨と風の中、14 時に常念小屋へたどり着いた。ここでの生ビールも最高のご褒美となった。日没前に雨は上がり、槍ヶ岳のすぐ脇に沈む夕陽に感動！

28 日は、天候に恵まれたが槍ヶ岳のモルゲンロートは見られず。4:45 からの朝食を済ませ、集合写真などを撮ってから 6 時発。前常念岳への分岐までの 1 時間 10 分程は、先行組に離されないよう喘ぎ喘ぎ浮き石の多い急坂を登っていく。前常念分岐では全員が揃うのを待ち、今回初めて先頭で前常念岳に向かう。前常念岳で 30 分程休憩し、常念小屋で頂いた焼きおにぎりを食べた。前常念岳からの下りは、巨岩が立ち塞がる超の付く急坂だったが、体の重心が前(腹?)にある私は重力に任せてバランス良く下ることができた。

樹林帯に入ってから 3 時間、37 年前は暗くなった山道を泣きたい思いで下ったが、今回は吉田君と程好いペースを保ちながらひたすら下り、三股には 13:50 に到着した。帰りは大見先生の車で“ほりで一ゆ 四季の里”に送っていただき、吉田君とほりで一ゆの温泉で三日分の汗と疲れを洗い流して気分爽快！

今回の蝶ヶ岳・常念岳の現地研修会は、久々にハードなコースで高齢者向きではなかったように思われますが、これを平然と「帰宅するまでが登山である」とされた会員の皆様に敬意を表して、私のレポートといたします。

第 76 回現地研修会

「蝶ヶ岳と常念岳」報告 その 5

細萱 繁

たまたま 3 日間の空白日を作って、今年 2 度目の JR 青春 18 切符を使った乗り鉄旅を楽しんできた。

8/23①田沢 6:26 発 中央・東海道線経由で岐阜(泊)

8/24②東海道・関西・草津・東海道・奈良・桜井・和歌山・阪和・東海道線で岐阜(連泊)

8/25③高山・太多・中央・東海道・飯田・中央線で田沢 18:32 着

そして、8/26 からの蝶ヶ岳・常念岳研修へと移った。

我が家の玄関を出入りする度ごと横を向くと、真西の方向に蝶ヶ岳頂上から蝶ヶ槍の山並みが垣根越しに眺めることができる。常に岳の天候が気になっている。今朝の山容は雲に覆われていた。

7:30 堀金ほりで一ゆ P に仲間 10 名が個別集合。駐車区画確保が難しい三股登山者用駐車場の先、蝶ヶ岳ヒュッテの計らいで、山岳関係者専用の登山口まで、3 台に分乗して三股へ。

登山準備を整えて、8:20 いよいよ蝶ヶ岳へ向けて出発。沢歩きから、山腹・尾根道に変わっていくと列が乱れてきた。頻繁に立ち止まって呼吸を整えつつ、中途のまめうち平休憩まではなんとか集団で、その先は個別グループ登頂になってしまった。

三股では日差しがあったものの、1 時間先のゴジラの枯木・唐松並木からは雲・霧中に変り、右に見えるべき常念は遮蔽。日差しが無い分助かったものの、整備された階段登りはきつく息絶え絶え、発汗に悩まされた。

入山直ぐには、6:00 に小屋を出た単独女性下山者やら、次に 15 名程と行き交い、昼前には日帰り下山者 10 名程に出会い、山頂の気象・視界状況が把握できたが、ガスが巻いているようで、穂高～槍の遠望は駄目みたい。

最終グループ 5 名と山頂を経由し、14:00 過ぎ蝶ヶ岳ヒュッテ到着。15:00 受付ホールにて登頂乾杯が始まり、100 名程の宿泊者があって、17:40 からの 2 組目での夕食。

翌朝は 5:00 点灯。東向きの 2 段の下段 2 人区画室であったため、西風のガス流れの間に、5:15 の御来光を窓越しに拝むことができ、幸せな 2 日目を迎えられた。6:00 朝食。7:00 出発となった。

槍・穂高の遠望は利かず、相変わらずの西強風の中、防寒着を羽織って稜線歩きへ。天候が優れないのが幸いし、横尾への分岐～蝶ヶ槍の間で、親子 3 羽の雷鳥に出会えた。

蝶ヶ槍からの下り、小さな山稜を 3 つ越えるまでは、なんとか隊列が組んでいた。今日の最難関常念岳南陵の登りでは、やはり列が大きく乱れてしまった。

巨岩の間にルートを捜しながら、喘ぎながら歩を進め、やっとこ頑張って、12:00 過ぎ常念頂上に至った。先行 7 名で記念撮影中に雨が降り始めた。後続 3 名を待つことなく、2 組に分かれ、常念小屋への下山。一旦の止み間もあったが、頂上では強風下の突然の小雨であったため、ザックカバーをしたのみで十分な雨支度ができなく、1 時間余りの岩道行程であったので、全身ビショ濡れで小屋到着。直ちに着替え、乾燥室へ直行。寒さでブルブル。

雄太社長の計らいもあって、1 階玄関奥の 12 名定員の間仕切り大部屋をあてがってもらえた。最終組も 14:30 に到着。前日と同時刻 15:00 には、食堂で社長を囲んで安着乾杯となった。70 名程の宿泊者だったので、17:00 全員での夕食。雄太社長の冷酒 1 升の振舞いがあり、豪勢な夕食会となった。

この食事時、真西正面に聳える槍ヶ岳から北穂までの雲が突然の如く切れ、夕日を浴びつつ、全景を眺める好運に恵まれた。夕食後には、食堂の外、ベランダで 18:15 頃槍の右肩、北鎌尾根側に沈む夕日を拝むことができた。

その後、雄太社長を交えて、受付横のホールで延々の懇親会が続いたが、20:00 消灯。

4:00 点灯。5:40 朝食と聞いていたのに、何でこんなに早いのかと不思議に思いつつ、前日の雨中のがむしゃら下山での筋肉痛を覚えながら、4:30 起床。身支度のため、乾燥室へ向う途中の食堂前では朝食の準備が整いました、との案内。なんと 4:40 朝食となった。

ここ常念でのご来光は、小屋を出て乗越へ行かないと見られない。背後の槍ヶ岳やらには昨夕のまま全く雲はなく、上空は薄雲。東方は一面の雲海から、蓼科山・美ヶ原・浅間山・四阿山が浮かんでいる。5:15 過ぎ、浅間山の左から太陽が昇って、素晴らしい光景。

小屋前で集合写真を撮った後、6:00 過ぎ常念頂上へ向けて出発。高度が上がるにつれ、西・北・東方向 300°余りの山並が遠望でき、その絶景に見入ってしまい、足が止まること頻り。

前常念への岩稜歩きに変わると、蝶ヶ岳方面の南方が見渡せ、雄大な景観。右を見下ろせば、対面の山腹樹林帯には、一昨日の蝶ヶ岳ルートが確認できて、周回コースの醍醐味に満足。常念岳から標高差 200m 低い前常念では、安曇野を眺めながら間食休憩。

いよいよ、これから今日の最難関である標高 1350m 登山口三股への標高差 1300m の急坂下り。標準タイムは 4:00 だ。常念小屋から前常念への 2:00 を 5 割増の 3:00 を要していたので、この先は大分ゆっくりペースになろう。更に、下山時の筋肉疲労を極力抑える下山歩行をしたい。

まず、巨岩の中を抜け降りる急坂が続く。ここを過ぎると低木から針葉樹林帯に入る尾根歩きへと続き、中間点を越すと、山腹の急斜面をジグザグ下降路が待っている。

尾根歩きが終わらない内から、最終尾が迫ってこなくなってしまう、後尾にいた私とその追尾確認を数 10m 毎頻繁に行うことになってしまい、自らのペースも待機時間の方が増すことになり、筋肉痛発症の心配はなくなって、反面好都合になった。

何とか、16:00 には三股に下山できた。先行した 5 名は次の都合があって早々に下山済。待機してしてくれた仲間と共に 2 台で堀金へ。16:30 ここで無事解散。

我が故郷の山旅をたっぷり楽しめ、両小屋と同行できた仲間の皆さんに感謝いたします。お疲れ様でした。

「蝶ヶ岳」から縦走し、「常念岳」に登頂して ～第 76 回現地研修会「蝶ヶ岳と常念岳」報告 その 6～

吉田 幸二

安曇野を終の棲家と決め、住むようになり 22 年、安曇野のシンボル、ほぼ毎日仰ぎ見る「常念岳」にいつかは登りたいという思いが年々、強くなりました。

ところが今年は、北アルプス等で私の年齢より若い方が遭難しているというニュースが特に多く聞かれ、家族には、「今日も捜索に向かうヘリが飛んで行ったよ」と言われ、その上、登れるか不安もあり、今回は参加するか非常に迷いました。が、今回が最後のチャンスと思い行くことにしました。

「蝶ヶ岳」から縦走し「常念岳」に登頂することが出来き、強烈な風雨の中、びしょ濡れになり、もう山へは来たくないと思いながら、常念山荘に辿り着きました。



常念岳から前常念岳に下山途中

翌日は、前日とは打って変わって、最高の天気！ 槍ヶ岳とライチョウの見送りを受け、穂高岳、蝶ヶ岳、横通岳、鉱山植物、ハイマツ等の最高のロケーションを見ながら、岩場の登山道を降り、毎日仰ぎ見る「前常念岳」まで降りて来て、安曇野を見下ろした時には、本当に嬉しかったです。

それと参加者全員が怪我もなく、下山できたことはなり寄りでした。今回、山へと導いて下さった小林さんをはじめ、一緒に行って下さった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

信州大学山岳友の会会報 第 58 号
発行日：2026 年 3 月 27 日
発行：信州大学山岳友の会
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1
信州大学山岳友の会事務局
TEL：0263-37-3332
FAX：0263-37-2438
E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp